

進捗状況の概要

本補助事業は、医療・福祉系人材の養成機能の抜本的強化を達成するために、系統的なアクティブ・ラーニング教育プログラムやルーブリック評価等を活用した学修評価の実施、関連学会等への情報発信と教育成果に関する論文の執筆、外部評価委員会の開催を通じて、(A)卒業後の専門職としての汎用的能力の定着の向上と(B)アクティブ・ラーニング教育改善モデルの提唱・情報発信を達成目標としている。

本補助事業の中の各当該教育プログラムの質の保証に留意しながら、本学教授会(計 10 回の中で報告事項 22 件と審議事項 5 件)や外部評価委員会等の PDCA サイクルを活用した取組の改善を図っている。

I) 教育方法の改善のためのアクティブ・ラーニングの質向上の取組について

医療・福祉系実践教育におけるアクティブ・ラーニング教育改善モデルとして立案計画している (a) 初年次導入教育、(b) インターンシップ前教育、(c) インターンシップ教育の計 6 つの教育プログラムにおいて、当該教育プログラムの質保証のための参加学生対象のアンケート調査を実施し、学生からの評価(意欲・満足度等に関する計 10 の設問項目)やニーズの把握に努めており、学生評価に関する計 10 の設問項目では、4 点満点のうち概ね 3.3 点以上の結果であったことを確認している。さらに、効果的な実施に資するため、経時的なアクティブ・ラーニング教育プログラムの改善や学修成果の可視化に関する検証を進めており、①初年次導入教育プログラムにおけるルーブリック評価の改善に伴う「教員間の評価のばらつき」指標の低下(平成 26 年度～平成 28 年度)や、②6 週間のインターンシップ教育プログラムにおけるルーブリック評価の有用性や汎用的能力の伸長に関する新たな知見が得られ、現在、学術論文執筆の準備を進めている。

II) 学修成果の可視化の取組の進捗状況について

- ① 学修成果アセスメントテスト:平成 26 年度から実施している学修到達度調査 (PROG テスト, 株式会社リアセック社) とその振り返り学習会への学生参加率も増加し、平成 28 年度には全学年を対象とした取組として実施し参加率もほぼ 100%である。また、学修到達度調査の成績と初年次専門教育科目成績との相関について、学修成果の可視化の観点から教育成果としての学術論文を執筆した〔全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌 2015, 介護福祉学 2015. とともに査読有〕。
- ② 間接評価調査(学生対象調査): 全学生を対象とした学修行動調査(大学 IR コンソーシアムの取組を参考にした IR 学生調査)実施率もほぼ 100%である。また、大学 IR コンソーシアム運営委員会から承諾を得て、教育の質保証と学生の主体性の観点から解析した教育成果としての学術論文を執筆し、現在、学術学会誌に投稿中である。
- ③ ルーブリックを活用した学修評価: 上記の計 6 つのアクティブ・ラーニング教育プログラムを中心に、学修成果の可視化を踏まえたプログラムの改善を進めている。
- ④ 「振り返り」学修支援学生ポートフォリオ: 全学生を対象としたポートフォリオの実施率もほぼ 100%であり、学生ポートフォリオの取組の改善に伴う経時的な学修自己管理能力や汎用的能力の伸長について新たな知見が得られ、現在、学術学会誌に投稿中である。

III) 定量的な数値目標と取組全体の達成目標について

達成目標としての退学率は平成 26 年度(4.4%)と比べ 2.8%に低減した。さらに、授業満足率は、平成 26 年度(64.3%)と比べ 73.9%に増加している。また、本事業の卒業後の教育効果を検証の際の比較対照群として、平成 27 年度末に卒後 3 年目(平成 24 年度卒業生)・卒後 1 年目(平成 26 年度卒業生)の卒後追跡調査を実施した(両学科とも調査紙回収率は 70%前後)。

IV) 外部評価の実施状況について

当事業の質保証のために外部評価委員会を年 2 回計 4 回実施することで、本事業の取組・成果・今後の課題等について評価を得るとともに、取組の改善を図るための協議を実施した。

今回の自己点検の結果、当初の計画及び平成 28 年度の大学教育再生加速プログラム(AP)「高大接続改革推進事業」の方向性に基づき概ね順調に進捗しているものと自己評価している。